

第 47 期 3rdQ 全社部会スピーチ

2019 年 10 月

『受注業務本社統合』

米中貿易摩擦の影響で今上期は、赤字となり半期ボーナス支給ゼロを 5 年振りに経験しました。注 1 ただ、昨年秋に煩忙期がひと息ついた際に、正直に言って私は「これで少し時間が稼げる」と思いました。去年夏までは、クリーンルームも製品検査も業務キャパを完全にオーバーしている状態で休日出勤が常態化し、家庭問題にまで発展しているパートさんもいると聞きました。今回の景気の踊り場は、思ったよりも「ひと息」が長引いているために、賞与がなくなっていました。しかしこの間に関西事業所のクリーンルーム業務能力を上げて、当面の目標である売上額 X 億円を突破する日に備えたいと思います。早渕注 2 のテコ入れも実行していきます。前回タウンワークでパート社員を募集した際には、応募が過去に例がないほど少なかったですが、今回は募集ページに工夫を加えて応募者を増やすつもりです。また、パートさんの不足を正社員の配置で補いたいと考え、学生選考で生産管理棟勤務が 2 名採用出来ました。クリーンルームと製品検査の同時面接を実施して 2 名とも製品検査が採用しましたが、早渕の正社員が増えるのは何かの時お互いの部署で人工の融通が利くため心強いです。部署の垣根を超えて生管棟全体で育てる気持ちをもって下さい。

以下総務部 技術部 生産技術部向け

来期に営業部へ新人が 5 名入社する予定となっています。今のままではデスクが足りないので、総務部は現在の集中室へ移動し、今の総務部の島を営業支援グループが使うこととなります。また、総務部は 50～51 期（2022～2023）に予定されている本社の東京移転に帯同してもらいます。自宅の引っ越しなどをする際には念頭に置いて下さい。

以下営業 3 部署（本社・関西事業所・九州事業所）向け

各事業所で行っている受注処理業務を来期から本社に統合することとなりました。そ

の理由は、関西事業所も九州事業所も新しい人材を募集しても応募が極端に少ないためです。関西事業所は今年新卒で T さんが入社しましたが、九州事業所は派遣、パート、正社員すべて募集して応募はほぼ皆無な状態です。そこにきて九州営業支援グループの F 主任が体調崩して九州事業所の受注業務が危うい状況となっています。

関西事業所では、クリーンルームの本格稼働に伴い事業所自体の重要性は増していますが、製品検査機能がないので関西から顧客先への直接出荷が実現せず、一度早瀬生産管理棟へ戻して検査をするため、物流コストと出荷リードタイムに問題が残っています。製品の移動距離が延びれば運搬中の毀損リスクも増えるし CO₂ 排出量も増えます。その為できるだけ早く関西事業所に製品検査部隊を編成したいと考えています。幸いに最近ようやく関西事業所にパート採用の応募が増えて来ました。教育系のリーダーを立てれば検査チームの編成は可能であると思えるようになりました。そこで製品検査のエキスパートでもある関西営業支援グループの Z 主任に教育役を担ってもらい新しく製品検査機能を立ち上げます。以上 2 事業所それぞれで異なる理由により受注業務の移管が必要となっています。本社営業支援グループで全国顧客の注文書処理を担当することになりますので、以下のようなスケジュールで移管作業を行っていきます。

47 期下期（2019/10～）準備開始

48 期上期（2020/4～）プロジェクト発足

- ・九州事業所分を先行移管する
- ・本社営業支援グループ 2 人 1 組で 1 ヶ月間九州事業所へ出向して、九州の受注業務を学ぶ。1stQ 中に 2 組出向完了する
- ・出向した合計 4 人が本社帰任後に 2ndQ 末まで他の営業支援グループ人員と外回り営業グループへ九州分受注業務を引き継ぐための教育訓練を行う
- ・9 月末にテスト移管し、その間 3 日程度九州営業支援グループ F 主任が出張で本社の移管後業務をチェックする
- ・48 期下期（2020/10～）九州事業所分を本社にて受注業務開始 注 3
- ・49 期上期（2021/4～）関西事業所分移管作業開始 Z 主任が半年間出向にて教育訓練
- ・49 期下期（2021/10～）関西事業所分を本社にて受注業務開始 Z 主任関西事業所復帰して製品検査グループを組織

米中貿易摩擦は、一進一退で着地点が見えない状況です。しかしながら戦争や大災害が関東を直撃しない限り、会社経営の方はなんとかするつもりです。その為色々と節約もやむなしとなりますが、どうかご理解下さい。年末の納会は、正式に中止と決定しました。下期も赤字が続いた場合、来年の社員旅行は延期します。ただし、業績回復した翌年に同じメンバーで決行しますので、旅行計画会議注4は今期中続けておいて下さい。

宜しくお願いします。

注1 フロウエルの賞与は、業績連動型を採用している。3月決算の会社なので、9月と3月に半期決算基準で支給される。全産業で最も好不況の動きが激しかった以前の半導体業界事情に合わせた措置。今後半導体業界は、以前のような停滞期は来ないと言われている。

注2 フロウエルの製品組み立て工場であるクリーンルームは、横浜市都筑区の早渕生産管理棟と滋賀県彦根市関西事業所の2カ所にあり、それぞれ在庫を備え、倉庫の役割も担っている。

注3 その後各事業所と議論を重ねた結果、九州事業所は営業支援機能を残すこととなった。その為求人応募を受けやすい立地へ移転する必要が生じ、2020年3月に熊本県菊池郡光の森へオフィスを移転した。

注4 フロウエルの社員旅行は、少人数のグループによる自由旅行制をとっている。ここに出てくる旅行計画会議とは、グループ員が集まって就業時間中に旅行の企画を立てる会議のこと。全社での旅行をしない理由は、製品出荷不能な就業日を作らないこと、普段交流のない社員同士少人数で旅行を実施し紐帯を増やすこと、少人数グループがかわるがわる旅行に出かけており、現場の人手が間引かれることで残る従業員が助け合い自然発生的に多能工化すること、従業員が自分で旅行計画や宿、交通やイベントのチケット手配を行うので総務部が工数をとられない、などが狙い。